

私とパソコン

隈元達雄

パソコンに出会ってどれくらい経つだろう。よくは覚えていないが定年を迎える随分まえの事だから 20 年近くはたっているだろう。私が入門編を習う前に会社ではすでに親会社主導のもと売上の伝票や請求書、簡単な集計表などは事務員さん達がやってくれていた。だが機械音痴の私はなにか怖いものでも見るように、遠くから眺めているような毎日だった。

そんなある日ついに私にも支社から召集令状が届いた。今後は月 1 回、福岡の九州支社で行われている支社会議の資料や東京の本社で開催される我々、子会社の株主総会の資料も全部パソコンに入力したものを使用するので、講習会に出てこいとのこと。1 泊 2 日の日程で事務員さん達も帯同して、福岡まで赴いた。

そこには私からみればアンちゃんにしか見えないような若い人間も混じった親会社の“情報システム室”の一団が待ち構えていた。

一台ずつ与えられたパソコンを前に緊張したおじさんの姿、いま思い出すと笑えるが、そのときはテストを受ける学生のように見えたとちがいない。

なにしろ入力の仕方も知らない私同様の販社のおじさん責任者が数名いる講習会である。はじめて聞くことばの羅列、やり方、自慢じゃないが、おじさん頭に馴染むはずもない。なにも理解できないような状態でその 2 日間は終わった。

しかしそこから勝負である。好奇心の強い私はなにか面白そうだということだけはわかった。「文字の入力はローマ字のほうが良い」、「最初は人が作ってくれたソフトに入力するだけで良い」などなどまわりの人間に教えてもらいながら、素直に？それに従った。そのうちにフロッピーがどうの、メールがどうの、解凍しなくちゃなどなど本を読んだり、教えてもらったりするうちに少しずつ楽しくなってきた。時間をかけながらの入力ではあったが、必要書類はなんとかこなせるようになった。しかし悲しいかな、おじさんには新しい場面に遭遇しても応用力がない。ワードや特にエクセルでの文書作成はいつまでたっても高嶺の花であったがこのところ必要に迫られて少しずつこなせるようになった。おかげで定年後も 65 歳まで現役を続けることができ、その後も親会社に復帰するかたちで九州管内の販社の“監査”の仕事をするようになり、3 年目に入った。またこの仕事もパソコンとは密接な関係があり売上台帳は当然のことながら機械の中である。事後の報告書も全てパソコンで処理しなくてはならない。

不器用な私が車の免許証を得たことと、パソコンを曲がりなりにも習得したことが、今日こうしておられることになったのかなと思うこのごろである。

数年前からは自宅にもパソコンを入れてメールをしたり、ブログを読んだり、出張の際のホテルの予約をしたり老後の楽しみが大きく広がった。

(2007, 9月記)